

学生会だより

九州学生会の活動報告

九州学生会は佐賀県、福岡県、長崎県、大分県、熊本県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県の大学と高等専門学校（高専）の学生会員により構成されている。福岡東地区、福岡西地区、長崎・佐賀地区、熊本地区、大分地区、宮崎・鹿児島地区、沖縄地区の7地区の延べ26校27組織の会員校が存在している。

しかしながら、各会員校が地方に点在するという九州の地理的事情から、各地区をまたいだ会員校同士の交流がなかなかうまくいかないという問題点を抱えている。この壁を取り払うべく2008年度よりIT技術を積極的に取り入れて解決を図ろうとの目的で作業が進められてきた。

一つ目は、九州学生会ホームページアドレスの固定化である。これまで持ち回りの担当幹事校で独自に開設していた学生会のホームページを、日本機械学会本部の学生会サイトに統一し、各年度の情報が分散しないようにするとともに、メーリングリストの開設準備を進めて、学生会からの情報発信を同じ場所から継続的に行えるように作業を進めている。

二つ目は、事務作業の合理化と経費の節減を目的とした電子ファイル受け付けである。卒業研究発表会の講演申し込み、発表原稿の電子ファイルでの

受け付けを行えるようにして、講演受け付け内容の再入力作業を減らし、また講演論文集の電子入稿が可能な体制へと移行させてきている。今後うまく活用して学生会会員同士の交流が促進されることを期待している。

次に、学生会の活動の一例として、九州工業大学で実施している「メカライフの世界展」の企画の内容を紹介する。

工大祭「メカニクスポ」—Mechanics Expo 2009—では、一般の来場者の子供から年配の方たちに、機械系工学部では普段何を学んで研究しているかを知ってもらうことを目的とした学科展を行っている。

各研究室の研究内容を紹介したパネル展示だけでなく、実際に体験ができるようにしている。たとえば、①サンドブラストによりグラスに模様を描くグラスアート。②アルファベットや数字を工作機械で彫り込んだ板を組み立てて型を作り、着色したロウを流し込んで行うロウソク作り。③プロジェクトで大きな映像を映し出してその映像に人が写り込んで人が動く映像中のボール等のキャラクタが動く画像処理のデモ。④風船ロケット、紙飛行機、紙トンボ、紙ブーメラン、ペーパークラフトの製作などの簡単ものづくり工房、などである。

来場した子供たちは、皆、体験しながら仕組みを学び、楽しんでいた。

今回のメカニクスポを通じて、来場された方々が工学に少しでも興味を持



図1 メカニクスポ学科展の様子



図2 メカニクスポ参加者の様子

つことができたのではないかと感じている。本年度の反省点を来年に活かしてさらに多くの人が足を運ぶ企画が行われていくことを期待したい。

〔九州工業大学大学院 情報工学研究院 機械情報工学研究系 教授 植原弘之〕

関西学生会の活動報告

関西学生会は、24校（大学18校、高等専門学校6校）に属する1050余名の学生会員を擁する大きな組織である。

学生会の運営は、12の幹事校を中

心に運営されており、毎月1回、幹事校より三十余名の運営委員が出席する運営委員会が開催されている。運営委員会においては、関西学生会が重視している「メカライフの世界」展、「卒業研究発表講演会」、「見学会」の活動に関する企画立案・実施を含む、学生会活動全般について熱心な検討がなされている。以下に、関西学生会の主な活動内容を記す。

1. 「メカライフの世界」展

4月に開催される上半期総会から企画会議を重ねて、「メカライフの世界」展の実施に向けて検討を行っている。2009年度の「メカライフの世界」展は、神戸市立青少年科学館において11月14、15日に開催され、延べ733人の入場者があった。開催のPRは、学生会が作ったパンフレットの神戸市内の小中学校への配布、神戸市立青少年科学館の行事案内、マスコミを通じた広報などによって行われた。出展物は、フォーミュラカーやホバークラフトの体験試乗をはじめ、ボール追尾ロボット、サーモグラフィなど多彩な内容であった。また、実際に子供たちにもものづくりを体験してもらえるように工作コーナーを設け、電子工作や本格的な紙飛行機、割り箸と輪ゴムで作るテンセグリティ等いろいろなものを製作してもらった。自分の作ったもので遊ぶ子供たちの目の輝きが大変印象的で、子供たちにとってこの経験が、科学技術への興味を抱く良い契機となったと思う。2010年度も引き続き、神戸市立青少年科学館において、11月13、14日の関西文化の日開催予定である。

2. 卒業研究発表講演会

卒業研究発表講演会（卒研講演会）は、毎年3月の卒業時期に開催され、多くの学生が1年間の研究成果を発表する場となっている。2009年度の講演会は、2010年3月15日に

神戸大学六甲台キャンパスにおいて開催され、432件（申し込み件数）の講演がなされた。

卒研講演会では Best Presentation Awards (BPA) が設けられており、40名が受賞（賞状並びに副賞のメダルを授与）した。BPAの評価は座長（大学院生）とコメンテーターをお願いした正会員の方々や、開催校の先生方、関西支部シニア会会員によって行われた。講演プログラムの編成、講演会の運営、BPAの採点集計・発表などはすべて学生会運営委員が担当している。2010年度の卒研講演会は2011年3月16日に京都工芸繊維大学にて開催される予定である。

3. 見学会

関西学生会では、年2回の京阪神地区の工場の見学会を開催している。2009年度には、9月10日に関西電力（株）の関西国際空港エネルギーセンターの見学会を実施し17名が参加、12月9日には大阪ガス（株）の西島工場（エネルギー営業技術センター）の見学会を実施し29名が参加した。例年、関係企業のご理解とご協力を賜り、学生にとって、産業界の実態に触れる貴重な意義深い見学会となった。

4. その他の活動

機関紙『春秋』を、学生による自主的な編集のもと、年1回刊行している。学生会の活動報告、「メカライフの世界」展などの行事内容や大学・高専の紹介などが掲載され、関西学生会会員校に無料配布されている。

また、関西支部主催の「企業技術交流会」へ積極的に参加し、多数の企業の方々と交流する貴重な機会を得ている。「関西支部シニア会企画」への協力も行い社会貢献する機会も得ている。

以上のように、関西学生会では全国の学生会活動の中でも特筆できる活発な活動がなされている。関西学生会は



図1 「メカライフ世界」展の様子



図2 大阪ガス（株）見学会の様子

多くの学生員に機械工学を学び、触れ、体験できる機会を提供し、会員の個々の日常の学習や研究のレベルの向上に大いに貢献していると確信できる。また、一般の子供たちを対象とした「メカライフの世界」展を行うことで、科学技術に対する認知度の向上に努め、将来の理工系の学生の増加の一助となっていると思う。今後も多数の学生の参加により、関西学生会がますます発展していくことを期待している。

なお、本平成21年度は、平成20年度から計画されていた運営委員の任期の変更の過渡期であり、本執筆者は、本年度の下半期だけの学生会委員長の役を担った。この間、協力いただいた関係諸氏に深く感謝申し上げますとともに、平成22年度以降に運営委員の任期が年度期間の単位となることをご報告しておく。

〔京都大学大学院 工学研究科 修士2年 土佐勇介〕